

## 兵庫県におけるツシマキモンチラシの記録

安岡拓郎

兵庫県神戸市北区においてツシマキモンチラシ *Eterusia watanabei* (マダラガ科 Zygaenidae: ホタルガ亜科 Chalcosiinae) を採集した。兵庫県内で採集された記録がないため、これまでに得られた他の情報と合わせて報告する。

2019年6月23日, 筆者の母が丹生山系の花折山に登山中に, 地表を歩いていた本種と思われる蛾を撮影した。以降, 筆者が周辺を何度か調査したところ, 2022年6月12日に神戸市北区山田町原野の車道沿いの下草に静止している本種のメスを発見した(図1)。また, これまでに中濱直之氏を経由して2019年6月16日に宝塚市丸山湿原(情報提供: 今住悦昌氏), 2021年6月21日に宝塚市丸山湿原(同: 関澤友規子氏), NPO法人こどもとむしの会のサイトを通して同日に宝塚市大峰山(同: 村越太津美氏), 八木剛氏と近藤伸一氏を経由して2022年6月15日に神戸市北区丹生山(同: 大木茂氏および中川貴美子氏)において本種が確認されて



図1 ツシマキモンチラシ。

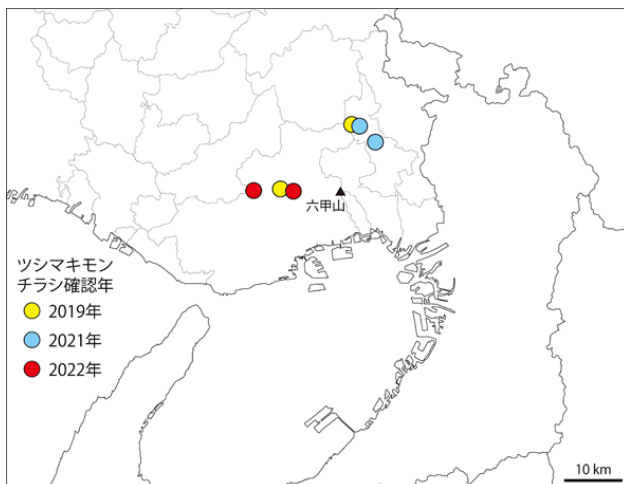


図2 分布図。

いる(図2)。

本種は長崎県の対馬に生息するものの他の地域での記録は少なく, これまでに広島県, 和歌山県(Takeuchi et al., 2012) および岡山県(岡山県野生動植物調査検討会, 2020) で記録があり, インターネット上では徳島県でも目撃された情報がある(虫撮りデジカメ日記)。六甲山系周辺では複数年にわたり近接した場所で発見されていることから, 同地域で定着している可能性が示唆された。本種の寄主植物は, 照葉樹林であれば普通に見られるヒサカキ *Eurya japonica* が知られている。にもかかわらず大型の美麗種である本種の記録が原産地の対馬以外で少ない理由は不明であるが, 本種が複数回発見されている丹生山系や丸山湿原周辺の環境, そしてその周辺の本種が見つからない環境を調査することでヒントが得られるかもしれない。今後さらに情報を積み重ねることで本種の生態が解明されることが期待される。

## 謝辞

本稿を執筆するにあたり, 貴重な目撃情報をご提供いただいた各位ならびに仲介くださった兵庫県立人と自然の博物館の八木剛氏および中濱直之氏, NPO法人こどもとむしの会の近藤伸一氏に厚く御礼申し上げます。

## ○参考文献

- 虫撮りデジカメ日記. ツシマキモンチラシ (online). <http://kisar.sakura.ne.jp/insects/1298tusimakimontirasi.html> (2022年11月3日閲覧).
- 岡山県野生動植物調査検討会(編), 2020. 岡山県版レッドデータブック2020動物編. 岡山県環境文化部自然環境課, 岡山, 812 pp.
- Takeuchi, T., Endo, H. and Owada, M., 2012. Notes on a moth, *Eterusia watanabei* (Lepidoptera, Zygaenidae), in Hiroshima Prefecture, Japan. *Lepidoptera Science*, 63(3): 119-123.

(Takuro YASUOKA 兵庫県神戸市)